

報文

狭山丘陵北部とその周辺地域におけるキツネの最近の記録

重昆^{かきひ} 達也¹⁾・須賀 聡²⁾

¹⁾ 358-0046 埼玉県入間市南峯 335-3

tatsuya.kasahi@gmail.com

²⁾ 埼玉県狭山丘陵いきものふれあいの里センター

suga@totoro.or.jp

要旨

狭山丘陵北部とその周辺地域における 2011 年 1 月から 2013 年 12 月までの 3 カ年のキツネの情報を収集したところ、11 例の記録が集まった。その内訳は狭山丘陵から 6 例、周辺地域から 5 例であった。狭山丘陵の北西側では分布域が丘陵地から武蔵野台地に拡大傾向にあることが確認された。また丘陵地の北東部でも飛び地的な緑地での記録が得られるなど、こちらでもやや分布域が拡大する傾向が認められた。周辺地域では、人口密集地を避けるように、畑地や平地林の広がる地域から記録が得られた。本丘陵のキツネの分布域は拡大傾向にあると推察されることから、その動向は今後もモニタリングされるべきと考えられる。

キーワード: 分布 ; 武蔵野台地 ; 埼玉県

はじめに

狭山丘陵のキツネ（アカギツネ）*Vulpes vulpes* については、重昆（2011）が、狭山丘陵の哺乳類に関して記述のある 1976 年から 2008 年までの既存文献 54 点を整理し、さらに狭山丘陵の哺乳類に関心をもつ有識者 10 名へのヒアリングを行った結果、東京都側の東大和市、武蔵村山市および瑞穂町、埼玉県側の所沢市および入間市に記録があることを整理した。狭山丘陵からは昭和 30～40 年代（1955～1974 年）に絶滅したとする資料もあるが（小原 1982）、当時の狭山丘陵のキツネについて具体的に調査を行った記録はなく、当時のことをたどる資料がない。確実な最初の記録は狭山丘陵の西部で 1982 年に目撃されたもので（荻野 1984）、この発見について荻野豊氏は「狭山丘陵の自然もいよいよ本物になったという感が深い」という感想を記している。当時の狭山丘陵では本種が非常に珍しい動物だったことがうかがえる。その後、主に狭山丘陵の北西部（瑞穂町域、入間市域、所沢市域）での目撃記録がみられた。入間市宮寺や瑞穂町高根の狭山丘陵の樹林内ではしばしば巣穴が発見され、親子連れが見られたという記録もあった。また、狭山湖や多摩湖の湖畔では足跡が見つかった（重昆 2011）。

しかし、重昆（2011）の報告は主に既存文献からの記録の整理であり、現地調査を伴っていないことから、キツネの分布を正確に把握しているとは言い難い。また、既存文献とヒアリングか

らでは近年の分布状況が把握できなかった。本種のような行動圏の広い高次捕食者が狭山丘陵に生息可能だということは、本丘陵の生物相の豊かさを指標している。従ってその分布や生息状況は常に把握されるべきだと考えられるが、埼玉県側に限れば、重昆 (2011) 以降、所沢市内や入間市内で 3 例の記録が見られるに過ぎず (埼玉県環境部みどり自然課 2013)、狭山丘陵を対象に整理されたものはない。

2011 年～2013 年は狭山丘陵の埼玉県側でキツネの目撃や死体発見の情報が相次いだ。これらの情報を狭山丘陵のキツネの分布域の把握に資するものとして整理しておきたい。なお、本研究では狭山丘陵から数 km 離れた場所でのキツネの分布情報も得られた。狭山丘陵の周辺地域にどの程度本種が分布しているのか概観する意味も含めて併せて整理しておく。なお、これらの情報はすべて発見者からの情報提供によるもので、筆者らが直接現地で観察したものではない。

調査範囲

狭山丘陵の埼玉県側 (所沢市、入間市) を調査範囲とした。ただし、狭山市からも 1 例の記録が得られたので今回の報告に含めた。狭山丘陵の東京都側は調査範囲としなかったが、瑞穂町から 1 例の記録が得られたので今回の報告に含めた。狭山丘陵の現在の樹林地の分布から 1km 前後までの範囲を「狭山丘陵」とし、それより遠方を「周辺地域」として扱った。

調査方法と調査期間

「埼玉県狭山丘陵いきものふれあいの里センター」に連絡のあったキツネの情報を整理したほか、「トトロのふるさと基金事務局」、「早稲田大学自然環境調査室」、「さいたま緑の森博物館」、「入間市博物館 ALIT」、入間市と瑞穂町内のクリハラリスの駆除活動を行っている「入間・瑞穂クリハラリス問題対策グループ」および入間市の鳥類勉強会「信天翁」^{あほうどり} にヒアリングを行い、キツネの情報を収集・整理した。有効な記録は、発見者、確認日時および確認場所が正確に判り、映像での記録が残っているものとした。年齢別の判断は、発見者の多くが専門家ではないことを踏まえ、明らかに幼獣と思われる個体以外はすべて成獣として扱った。情報の収集期間は 2011 年 1 月～2013 年 12 月までの 3 年間とした。

調査結果

調査の結果、11 例のキツネの記録が得られた。内訳は所沢市 6 例、狭山市 1 例、入間市 3 例、瑞穂町 1 例であった (図 1)。このうち狭山丘陵からの記録は 6 例 (所沢市 4 例、入間市 2 例)、周辺地域の記録は 5 例 (所沢市 2 例、狭山市 1 例、入間市 1 例、瑞穂町 1 例) であった。

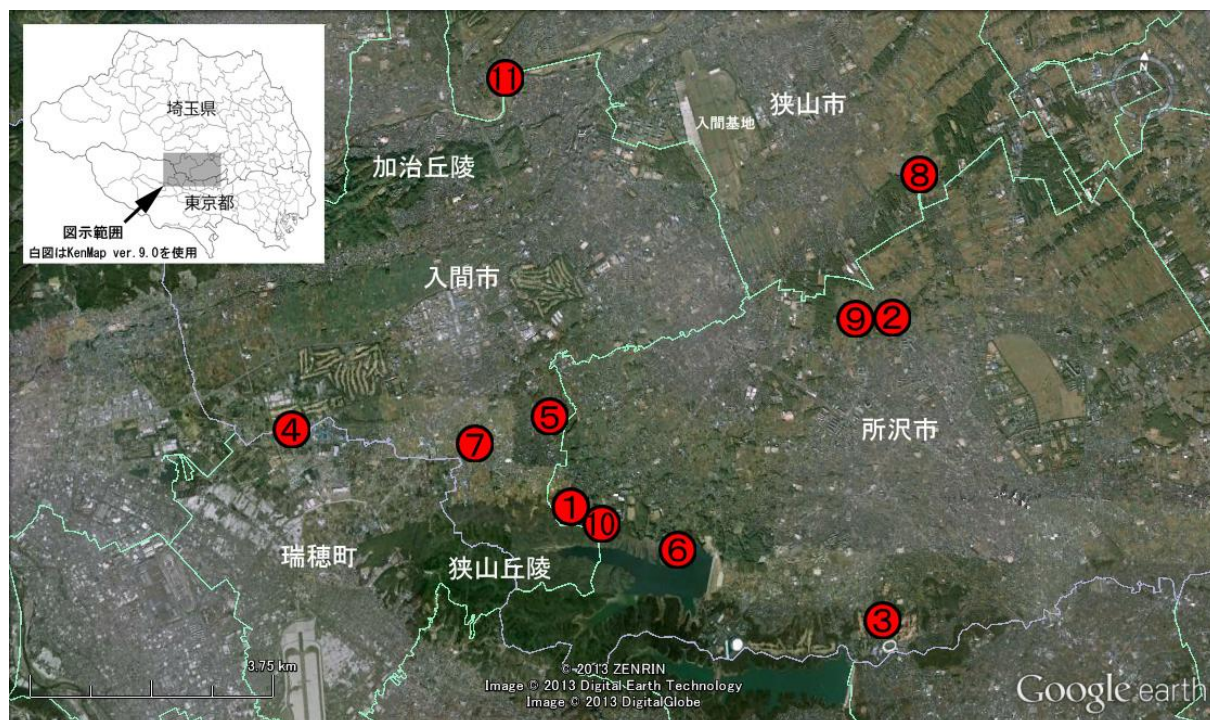


図 1 狭山丘陵北部とその周辺地域におけるキツネの記録(2011～2013年)

以下に各確認状況を整理する。

事例 1

発見者：大堀聡氏

発見日時：2011年4月13日

確認方法：死体

確認場所：所沢市堀之内（図1の①）

確認状況：道路脇に死んでいた。成獣。



図 2 所沢市堀之内で見つかったキツネの死体

撮影：大堀聡氏

事例 2

発見者：粕谷真由氏

確認日時：2012年4月15日

確認方法：死体（ロードキル）

確認場所：所沢市岩岡町 県道沿い（図1の②）

確認状況：道路脇に死んでいたメス成獣を回収した。乳頭が腫脹していたので子育てをしていたものと考えられる。

その後の処置：「埼玉県狭山丘陵いきものふれあいの里センター」（所沢市荒幡）に届けられた。

全長 86 cm、体重 3.8kg。現在は同センターで触察剥製（触れることのできる剥製）として展示している。

補 足：埼玉県環境部みどり自然課（2013）に所沢市北部から報告されている事例と同一の可能性はある。

（剥製業者の所見として）下顎を骨折していた。また、右前脚の狼爪（石かき）より先端部が失われていた。幼い時にトラバサミのようなもので足を切断したようであるが、傷は完全に治っており、普通に歩いていたようである。冬毛から夏毛への交毛期の個体。



図 3 所沢市岩岡町で轢死したキツネ(2012.4.15)

撮影：須賀聡

事例 3

発見者：羽田貴尚氏

確認日時：2012年5月5日 早朝

確認方法：撮影（カメラ）

確認場所：所沢市荒幡 ゴルフ場内（図1の③）

確認状況：神社の高台に登ったところ、200mほど離れたゴルフ場内を歩く成獣1個体を見つけ撮影した。非常に警戒した様子で、間もなく姿を消した。

補 足：2012年5月25日付の東京新聞（埼玉中央版）に「所沢の狭山丘陵 ホンドギツネ撮

影」として報道された。



図 4 所沢市荒幡のゴルフ場内を歩くキツネ(2012.5.5)

撮影:羽田貴尚氏

事例 4

発見者：田村典子氏（東京都産業労働局の委託調査で設置した無人撮影カメラで撮影）

確認日時：2012年7月19日 5:40

確認方法：撮影（ビデオ）

確認場所：瑞穂町二本木 平地林内（図1の④）

確認状況：クリハラリス撮影用の無人撮影カメラに、スギ・ヒノキ植林内の林床を歩く成獣1個体が写った。



図 5 瑞穂町二本木の平地林内を歩くキツネ(2012.7.19)

撮影:田村典子氏

事例 5

発見者：荻野豊氏

確認日時：2013年1月31日

確認方法：死体

確認場所：入間市宮寺 荻野豊氏の管理する畑（図1の⑤）

確認状況：半ば白骨化した死体で、死後しばらく経過していると思われミイラ化していた。性別などは不明。外傷などを確認できる状態になく、死因も不明。

その後の処置：対馬良一氏が持ち帰り、頭骨などを取り出し、学校教材として活用している。



図6 入間市宮寺の畑で見つかったキツネの死体(2013.1.31)

撮影：荻野豊氏

事例 6

発見者：木村巧氏

確認日時：2013年2月9日および2月21日

確認方法：撮影（ビデオ）

確認場所：所沢市上山口 狭山湖畔（図1の⑥）

確認状況：狭山湖の堤体から、狭山湖北岸の湖畔にいる成獣1個体を撮影した。両日とも同一個体の可能性がある。湖畔でたたずんだり、うずくまったりしていた。湖畔に打ち上げられる餌を探しているものと思われた。キツネに興味を示してカラス類が集まっていた。



図 7 所沢市上山口の狭山湖畔にいるキツネ(2013.2.21)

撮影: 木村巧氏

事例 7

発見者: 石川光公氏

確認日時: 2013 年 4 月 13 日

確認方法: 死体

確認場所: 入間市宮寺 石川光公氏の管理する畑 (図 1 の⑦)

確認状況: 特に外傷のみられない毛並みのきれいなメス成獣。死因は不明。畑の中なのでロードキルではない。乳頭が腫脹していたので子育てをしていたものと考えられる。体は細かったが、衰弱した様子は見られなかった。

その後の処置: 「入間市博物館 ALIT」(入間市二本木) に連絡し、職員に見に来てもらったが、同博物館では動物標本は収集していないということだったので、自宅近くのお稲荷様に埋葬した。

補 足: 2 週間くらい後、付近の農家が、死体が見つかった場所の近くの牧草地で草刈りをしていると成獣 1 個体と幼獣 2 個体が飛び出すのを目撃した。また、近くの骨油を抽出する工場からキツネが運んできたと思われる家畜の骨が畑に落ちていることがある。



図 8 入間市宮寺の畑で見つかったキツネの死体(2013.4.13)

撮影:長谷川奈美氏

事例 8

発見者:須田良泰氏

確認日時:2013年5月6日

確認方法:死体(ロードキル)

確認場所:狭山市堀兼 市道沿い(図1の⑧)

確認状況:路肩で死んでいた幼獣を回収した。目立つ外傷は見られなかった。

その後の処置:「埼玉県狭山丘陵いきものふれあいの里センター」(所沢市荒幡)に届けられた。全長70cm、体重1.5kg。現在は同センターで触察剥製として展示している。



図 9 狭山市堀兼で轢死したキツネ幼獣(2013.5.6)

撮影:須賀聡

事例 9

発見者：戸田匠音氏

確認日時：2013年8月15日および8月16日

確認方法：撮影（カメラ）

確認場所：所沢市北中（図1の⑨）

確認状況：親子と思われる成獣1個体と幼獣1個体を撮影した。付近には足跡が多数見られた。

発見者を確認後も一定の距離を保ち、成獣が幼獣の体をグルーミングしていた。

補 足：8月下旬には幼獣は見られなくなった。



図10 所沢市北中の2頭のキツネ(2013.8.15)

撮影：戸田匠音氏

事例 10

発見者：牛込佐江子氏

確認日時：2013年9月17日 11:45

確認方法：撮影（カメラ）

確認場所：所沢市堀之内 トトロの森5号地（図1の⑩）

確認状況：成獣1個体が地面のにおいを嗅ぐようなしぐさをしながら発見者の方に近づいてきた。頭を下げていたので、耳の先端の黒い部分がよく見えた。発見者に気が付くと、軽やかに跳ねる感じで、ほとんど音をたてずに森の方に逃げて行った。弱っている様子もなく、印象としては元気な様子だった。



図 11 所沢市堀之内トトロの森 5 号地のキツネ(2013.9.17)

撮影:牛込佐江子氏

事例 11

発見者：柳沢紀夫氏

撮影日時：2013 年 10 月 31 日 6:00～7:30

確認場所：入間市鍵山（図 1 の⑪）

確認方法：撮影（カメラ）

確認状況：早朝に草地に成獣 1 個体がいるのを発見した。一度見失ったが、しばらくしてからセグロセキレイ *Motacilla grandis* を追跡していたので撮影した。その後、発見者に気づき立ち去った。

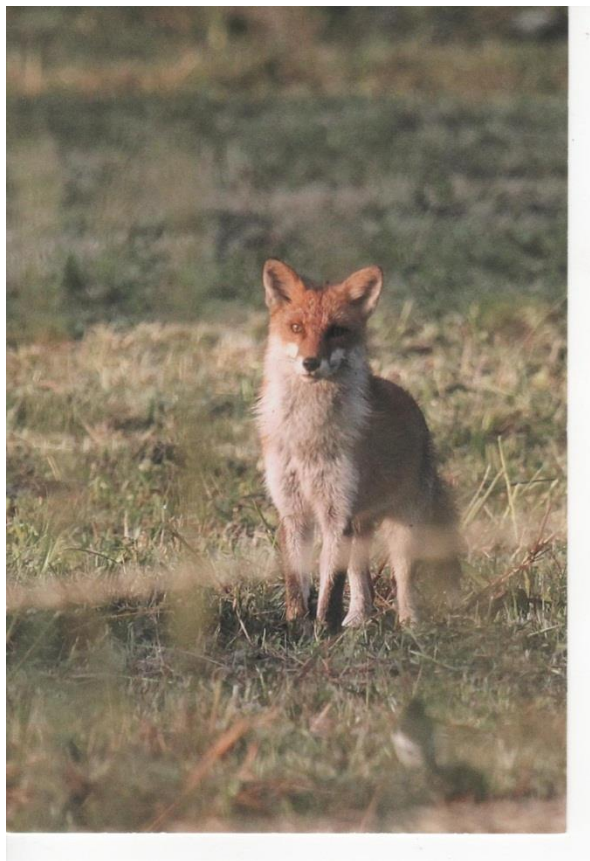


図 12 入間市鍵山のキツネ(2013 年 10 月 31 日)

考察

過去に報告のあった狭山丘陵北西部からの記録は得られなかったが、北西側では入間市宮寺の武蔵野台地上での記録が 2 例得られた。狭山丘陵からの距離は事例 5 が 1.2km、事例 7 が 0.9km である。重昆 (2011) とは調査範囲が異なっているので単純な比較はできないが、従来見られなかった場所で子育て中と思われるメス成獣の死体が見つかるなど、狭山丘陵の北西側では出現する範囲、さらには繁殖していると推測される範囲が狭山丘陵から武蔵野台地へと拡大しつつあることが確認された。

一方、狭山丘陵の北東部では、従来から報告のあった所沢市西部の丘陵地 (事例 1 と事例 10) や狭山湖畔 (事例 6) からの記録が得られたほか、「埼玉県狭山丘陵いきものふれあいの里センター」のある所沢市荒幡の飛び地的な緑地 (事例 3) でも初めて記録が得られた。狭山丘陵の北東部でも出現する範囲がやや拡大傾向にあるものと推察されるが、飛び地的な緑地の多い北東部で今後も分布を広げるのか注目される。

周辺地域では、まず瑞穂町北部から記録が得られた (事例 4)。狭山丘陵までの距離は 2.1km である。この付近では 2003~2004 年にも 3 例のキツネの目撃やロードキルが記録されており (村山 2006)、また 2013 年 6 月 23 日にも目撃されている (御手洗望 私信)。この付近を継続して利用している個体があることがうかがえる。また、所沢市北部から狭山市南部にかけての範囲から 3 例の記録が得られた (事例 2、事例 8、事例 9)。狭山丘陵までの距離は 3.6~6.2km である。以前よりこの付近に生息することは知られていたが (埼玉県環境部自然保護課 2008)、子育て中と思わ

れるメス成獣や幼獣が見つまっていることから、繁殖が行われているものと推察される。さらに入間市北部からも 1 例記録された (事例 11)。狭山丘陵までの距離は 6.8km で、狭山丘陵よりも加治丘陵に近接する。入間市北部に定着している個体がいるのか情報はないが、航空自衛隊入間基地の中でしばしばキツネが目撃されているらしい (津森義則 私信)。以上のように周辺地域のキツネについては、人口密集地を避けるように、畑地や平地林が広がる場所などに分布している傾向がうかがえる。

埼玉県の「台地・丘陵帯」のキツネは「埼玉県レッドデータブック」(埼玉県環境部自然保護課 2008) により、「準絶滅危惧」に選定されている。本種は広い行動圏を持つと考えられているが、狭山丘陵に棲む個体群と周辺地域の個体群との交流を保てるよう配慮する必要があるだろう。やや分布域が拡大傾向にある狭山丘陵のキツネの動向は今後も把握される必要がある。また、武蔵野台地の上には本種は局地的にしか生息していないことから、丘陵地や山地の個体群との関係を踏まえながら、俯瞰的に動向をモニタリングする必要があるだろう。

今後もこの地域のキツネの動向について注目していきたいと考えている。

謝辞

キツネの情報および映像を提供して下さった以下の方々、ヒアリングを快諾して下さった以下の方々に感謝申し上げます (50 音順: 敬称略)。

石川光公 (埼玉県入間市)、牛込佐江子 ((公財) トトロのふるさと基金)、荻野豊 ((公財) トトロのふるさと基金)、大堀聡 (早稲田大学自然環境調査室)、粕谷真由 (埼玉県所沢市)、木村巧 (埼玉県入間市)、須田良泰 (埼玉県所沢市)、関口浩 (北中ネイチャークラブ)、田村典子 ((独) 森林総合研究所多摩森林科学園)、対馬良一 ((公財) トトロのふるさと基金)、津森義則 (入間市役所)、戸田匠音 (埼玉県所沢市)、長谷川奈美 (入間市博物館 ALIT)、長谷川勝 (さいたま緑の森博物館)、羽田貴尚 (埼玉県所沢市)、御手洗望 (入間・瑞穂クリハラリス問題対策グループ)、柳沢紀夫 ((公財) 日本鳥類保護連盟)

引用文献

重昆達也 (2011) 狭山丘陵の哺乳類. トトロのふるさと財団自然環境調査報告書 (第 8 集), pp20-72, 財団法人トトロのふるさと財団, 所沢.

村山俊彰 (2006) 瑞穂町野生動物確認記録の経緯. 瑞穂の動植物, pp130-135, 瑞穂町教育委員会, 瑞穂.

小原秀雄 (1982) 東京都の哺乳類. 東京都の自然, pp65-73, 紀伊國屋書店, 東京.

荻野豊 (1984) 狭山丘陵の環境. 狭山の森から オオタカ密猟監視報告'83, pp8-18, オオタカ密猟監視委員会.

埼玉県環境部自然保護課 (2008) 埼玉県レッドデータブック 2008 (動物編). 352pp, 埼玉県環境部自然保護課, さいたま.

埼玉県環境部みどり自然課 (2013) 県民参加生き物モニタリング調査結果. 平成 24 年度調査総括報告書 (動物種)

<http://www.pref.saitama.lg.jp/uploaded/attachment/572620.pdf> 2013 年 12 月 21 日最終確認